

# 平成29年度 自己評価書

学校名	和歌山市立和歌山高等学校
校長氏名	勝本 泰弘
作成日	平成30年3月2日

## 1 教育目標

人間性豊かで社会に貢献できる人材の育成に努める。

## 2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心	確かな学力
重点目標【P】	内外に開かれた学校づくり	人権尊重の精神と基本的生活習慣の確立	学習習慣の確立と基礎学力の定着

取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の活動状況を積極的に発信しホームページの充実にも努めた。</li> <li>地域住民との交流の好機会として市高デパートを開催した。</li> <li>進路指導・保健指導・生徒指導、総合ビジネス科・デザイン表現科・普通科の授業等において外部講師を積極的に活用した。</li> <li>地域の防犯補導活動に参加した。</li> <li>高大連携事業を積極的に活用した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校指導を行い、服装指導・交通安全マナーの指導に努めた。</li> <li>基本的な生活習慣確立のため遅刻指導を実施した。</li> <li>教育生活相談週間を設定した。</li> <li>スクールカウンセラー等との連携をしながら、個々の生徒の実態把握に努めるとともに、教員間の情報共有を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読等を行い、1時間目の学習への準備態勢の定着を図った。</li> <li>振替授業等の実施により、授業時数の確保に努めた。</li> <li>将来の進路を見据えた進路指導を行い、その実現に向けた学習指導を行った。</li> <li>補充学習の指導に努めた。</li> </ul>
取組の成果と課題【C】	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の活動状況を学級通信やホームページで積極的に紹介でき保護者からも好評である。</li> <li>外部講師を招き各専門の立場から生徒、保護者、教員に向けての講演をしていただき有益であった。</li> <li>学校評議員、学校関係者評価委員を有効に活用し、学校の教育活動の報告等を行い意見をいただいたが、それを改革に生かすまでには至らなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任による遅刻指導を徹底したがまだまだ指導が浸透していない。</li> <li>スクールカウンセラー等との連携をしながら、個々の生徒の実態把握に努め、教員間の情報共有を図り有効活用できた。</li> <li>生徒の清掃等の活動については、より活発化しなければならない。</li> <li>校内でのスマートフォンの使用方法、女子の服装については、指導がまだまだ浸透していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT等を活用しながら授業内容、指導方法のさらなる工夫改善に努める必要がある。</li> <li>補充学習の指導に積極的に努め効果を上げることが出来た。</li> <li>普通科における映像講座についても一定の成果を上げることが出来た。</li> <li>進路ガイダンスをはじめとする進路指導を実施し、生徒の進路選択の契機づくりに貢献した。</li> </ul>
改善方法【A】	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティスクール導入のための実験的運営協議会を立ち上げ、学識経験者や地域住民、保護者の力を借りた学校づくりに努める。</li> <li>市高デパートの地域への貢献の方法について改善と研究をすすめていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールカウンセラー等との連携を継続しながら、個々の生徒の実態把握に努め、教員間の情報共有を一層図っていく。</li> <li>継続して登校指導、服装指導を行い、TPOをわきまえたスマートフォンの使い方について指導を継続していく。</li> <li>生徒の心を揺さぶり、人権意識を高める視聴覚教材の発掘を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教員が学期に1回程度は公開授業を実施するなど、教員相互の授業参観を活発に行い、授業改善に生かす。</li> <li>普通科についての映像講座、土曜講座の内容充実と方法改善をはかる。</li> <li>早期の進路決定を促すためのガイダンスや講演アドバイスのさらなる充実を図る。</li> </ul>

## 3 その他の課題

・校務分掌等の教職員組織をより効率的なものに改善を図り、各教職員が学校運営に積極的に関わる意識の更なる醸成を図る。

・校務のチェック体制の強化を図る。

・適正な人員配置と組織運営に努め、各分掌が連携し活発に活動できる体制を強化する。

・生徒指導における担任、学年生徒指導担当、生徒指導部それぞれの役割を明確にし、情報伝達の迅速化と情報共有の徹底をはかり、組織的な立案対応を強化する。